

日本労働年鑑 第27集 1955年版

The Labour Year Book of Japan 1955

第二部 労働運動

第三編 農民運動

第八章 農民組織の国際的連携

農林インターと日農、全農林との書簡による連絡はすでに一九五二年六月以来つづけられてきたが、本年に入ってよりこの国際的連携は一そう緊密に、具体的なものになった。すなわち、以下にかかげる数通の往復書簡によってもわかる通り、農林インターは世界各国における農林業労働者、農民の大衆的組織について日本に情報を送り、日本からは日農統一派総本部より、農林労働者と農民組織の現状を報じ、農民組織の国際的連携をはかったのである。

また一〇月二四日から二七日までの三日間、ウィーンで開かれる世界農林労働者農民大会に出席する日本代表 久保田豊日農委員長、浜野清副委員長、大谷安福島県連代表の三氏の歓送会が日農本部で開かれ、全農、全農連、日農主体性派等農民団体代表が参集して三氏を激励した。代表は二一日夜羽田を発ってウィーンに向った。

世界農林労働者農民大会は議員団の一人に久保田日本代表をえらび、他の二名も第一、第三委員会の委員となった。

大会第一日は各国農業情勢、農業労働者や農民運動の報告にはじまり、第二日もひきつづき各代表より詳細な報告がなされた。最終日には久保田代表が日本の実情を報告し満場の拍手を浴びた。農林インター新執行局は中国、イタリア、フランス、ポーランド等一五カ国代表により構成されることに決定。またアジア農民会議開催の態勢を固めることが決議された。(第二編第五章「国際労働運動」の項を参照)

(農林インターと日農の往復書簡)

五月八日付日農からの手紙

親愛な友

四月二九日のお手紙大変ありがとう

パスポート、査証、財政手段についてのくわしい情報はすぐ後便で送ります。又そちらに正確な資料を提供する継続的な報告もやがてお受取りになるでしょう。われわれは総選挙において、久保田委員長が輝しい勝利をえたことをお伝えできることを嬉しく思います。

われわれは農林インター国際会議のためのカンパニアを通じて国内の二つの組織とあなた方との結合をつよめられるよう望んでいます。農林インター加盟組織のリストを送って、貴組織が世の数多くの民主的諸組織をはばひろくふくんでいることを通知して下さい。あて先は

1、日本農民組合(数年前われわれの組織から分離したわれわれと同名の組織)東京都千

代田区内幸町二の一六

2、全林野労働組合 東京都千代田区霞ヶ関農林省内です。"早ければ早いほどよい"という金言を実行して下さい。又貴組織への加盟の手続をお教え下さい。さようなら。

五月一七日付農林インターからの手紙
親愛な友

五月八日付のお手紙ありがとう。われわれの国際会議に、七名の代表を送って参加するというあなた方の計画を、世界労連書記局へ知らせて、予想される渡航のこんなんについて手助けできるようにはからいました。

農林インターへの加盟の手続を知らせてほしいということでしたが、これはあなたの組織の大会或は大会のあとで承認するという条件をつけて執行機関の集会できめた旨をわれわれの書記局に手紙でご通知下さればいいのです。くわしいことは、同封した"農林インターの内部規則"及び農林インターの憲章制定会議(ワルソー、一九四九)の際のアピールをごらん下さい。

二つの農林労働者組織のあて名を知らせて頂いて大変ありがとうございました。あなた方の指示に従って二組織がわれわれの会議に正式の代表とオヴザーバーを一人送るようお招きする手紙を出しましょう。その手紙のうつしをあとで送りますが、あなた方は会議にできるだけはば広い日本の方々が参加できるようにこれらの組織とれんけいをとって下さい。

これらの組織には会議への参加のためのアピール("情報機関紙"一九五三・三月号)のうつしも送ります。

会議への参加のためのくわしい資料が必要なら、われわれの書記局にれんらくするよう二組織につたえて下さい。

以下農林インターに加盟している農林労働者の組織のリストをのせます。

アルバニア(アルバニア農林労働組合)、ドイツ(ドイツ民主共和国農林労働組合)、ブルガリア(ブルガリア農林労働組合)、中国(農林労働組合準備委員会)、朝鮮、フランス(フランス農林労働者連盟。海外諸国、諸領土を合む)、ハンガリア(ハンガリア全国勤労農民農場労働者同盟)、イタリア(全国農業労働者連合=コンフェデルテルラ)、ポーランド(ポーランド農業労働組合)、ルーマニア(ルーマニア農業、畜産、林業、労働組合)、チェコスロヴァキア(全国農林労働組合)、ソヴェト(トラクター、機械ステーション労働組合・国営農場労働組合・林業労働組合)、オランダ本国(農業、畜産労働組合)、ニゲリア(ニゲリア・カメルーン・VACアフリカ労働組合連盟)、セイロン(セイロン農場労働組合・セイロン国有地要員同盟)、インドネシア(サルブブリ=農場労働組合・サルブクシ=林業労働組合)、ラテンアメリカ(ラテンアメリカ諸国の数多くの組織が農林インターに加盟している。すなわち、メキシコ、グワテマラ、コスタリカ、キューバ、ホンデュラス、パナマ、コロンビア、エクアドル、アルゼンチン)

お会いする日が一日も早くくるように
ごきげんよう
書記長イリオ・ボッシ

五月二二日付農林インターからの便り
親愛なる兄弟たち

われわれから日本農民組合と全林野労組合に送った手紙のうつしを同封しました。これらの組織とのれんけいと会議への準備についてお知らせ下さるようお願いいたします。

ごきげんよう
書記長・イリオ・ボッシ

(日農第七大会を祝う)

農林インター

親愛なる兄弟の皆さん

農林インターに加盟する幾百万の農林労働者の名において日本農民組合年次大会に対し、あたたかい兄弟的なあいさつを送ります。

他の多くの国々と同じく日本に於ても、奴隷制と逆コースから祖国を解放するために農民が果す役割は全く重要です。しかし、封建勢力と帝国主義は、この農民の役割を、よくあつし、ひなんしています。

日本労働者階級によって示された英雄的模範について、ここ数カ月の間に日本農民の闘いは全世界に伝わり広がりがつあります。これらの闘いは封建制とアメリカ占領制度に正しくむけられた、土地のための闘い、アメリカ占領者の土地取上に反対する闘い、重税に反対する闘い、土地開墾とかんがいのための闘い、祖国の軍国化と再軍備に反対する闘いです。

従って、これらの闘いは、進歩と生活改善、自由と平和をのぞむ、総ての民主的勢力の闘っている世界全体の闘いの中の、なくてはならぬ部分となっています。しかしみなさんがめざしている要求は、全日本農民の統一なくしてはかちとられることはできません。

われわれ農林インターは、日本農民の前衛的組織であるみなさんの組織が、日本の他のすべての農民組織とわけへだてのない統一行動をかちとることができると思っています。そして生活改善、自由と平和という同じ綱領のための共通の闘いに、日本の全農民を立ち上らせることが出来ると固く信じています。

更に、この闘いは、農民が一人ぼっちではできません。農民はその要求をかちとるためには、勤労国民大衆のすべての階層そして先ず第一に工業労働者、農林労働者との同盟を必要とします。これは、日本を封建制による一〇〇年来の収奪と帝国主義の抑圧からてつて的に、完全に解放するためのなくてはならぬ条件です。この道にそってのみ農民は都市と農村の労働者階級と共に、貴国の歴史的進歩に於ける原動力となる事が出来るのです。

親愛なる兄弟のみなさん

農林インターに加盟している全世界の農林労働者は、日本農民が、日本農民組合という前衛組織にみちびかれて、よりよい生活と労働の条件と民族独立、平和のために闘っていることに対し、友情と共通の利害を感じてきましたし、これからもそうでしょう。

われわれの組織に加盟しているこれら幾百万の農場、林業労働者の名に於て、貴国と全世界の進歩のために、日本農民の権利と要求を守って、みなさんの大会が大きな成功をおさめるよう願ってやみません。

友情をこめて

一九五三・七・二二

書記長イリオ・ボッシ

最後に国際農村青年会議についてのイタリア農村青年のアピールを掲げる。

(国際農村青年会議のために全世界の青年諸君に訴える)

ラベナ地方のポー河デルタ地帯に生活し、それぞれことなつた政治的、宗教的意見をもつ私たち、農村青年一日雇農業労働者、自小作農民、小土地所有者、学生、労働者は、一様にひどい生活状態と非人間的搾取を強制され、青年勤労者としての人権すら無視され、スポーツや娯楽をたのしむ機会も奪い去られています。私達の住んでいる土地は、仕事と富と喜びを、私達に与えず、苦しみと悲惨な生活と失業との根源になっています。

祖先が耕して来た土地にしっかりと結びつけられている私達は農村で、もっと人間らしい生活を心からのぞんでいます。たべて行けるだけの最低の仕事と農業について学ぶ機会とが、十分に保証されることを心のそこからのぞんでいるのです。そうすれば私達の思うままに科学を開いて、機械によって労働できるし、休息もとれるし、スポーツをたのしみ、文化教養を十分、摂取することができます。要するに、仕事をもち、幸福な未来が保証されるのです。

ブラジルやフランス、デンマークやインド、アルゼンチンやアフリカなど世界中のどの国の農村の青年も、私達と同じ問題に直面し同じようなことをねがっていることを、私達は新聞やラジオ等でよく知っています。そして彼らも、私達と同じように闘っています。団結すれば、私達は、もっと強大になることができます。

団結しよう、世界中の全青年と全農村青年と固く結びつこう。そうすれば、私達の心からのぞんでいる一層美しい生活をきずくことができるのだ。

だからこそ私達は、世界中の農村青年と青年団体、労働組合、青年科学者、文化人、技術者、教育家たちに、国際農村青年会議を準備することをよびかけます。この会議で、私達は、お互い同志が理解し合い、経験を交流し合い、いろいろな問題を討議し、共通の要求を決定し、どうしたら新しい生活をきずいて農村を近代化できるかの諸方策をはっきりさせることができるでしょう。

老いも若きも、すべての農村の人たちが、平和のために団結することによってのみ、農村の青年の生活はすべての人にとって最善のものになってゆくことを私達は確信しています。だから、私達のこんどの会議は平和と友情のための大集会となるでしょう。

私達は統一行動によってのみ、よりよき生活ができると確信しています。私達は、イタリアの全青年団体、政党、労組、イタリアの全青年男女諸君に私達を授助し、全世界の青年に私達の提案を拡げてくれることをお願いします。

全世界の農村青年諸君、国際会議で会いましょう。そこで私達は一堂に会し、固い連帯と友情の握手を交わしましょう。そして、私達の農村を平和な世界の労働と喜びと富の源泉にするための、決意をもう一度たしかめあいましょう。

一九五三・一・二・六
セント・アルベルト・ラベナ地方
農村青年会議

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1955年版(第27集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
